

## 第90回機器・配管系検討会 議事録

1. 日時 2024年11月12日(火)10時00分～11時30分
2. 場所 一般社団法人 日本電気協会 4階 B会議室 (Web会議併用)
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
  - 出席委員: 中村主査(東京都市大学), 古屋副主査(東京電機大学), 野元幹事(関西電力), 行徳副幹事(日立 GE ニュークリア・エナジー), 藤田(東京電機大学), 大江(東北電力), 波木井(東京電力 HD), 久保田(中部電力), 辰尾(北陸電力), 田村(ワイロテックソリューション), 森田(四国電力), 森(九州電力), 大口(電源開発), 川幡(東芝エネルギーシステムズ), 工藤(富士電機), 宮崎(日本原子力研究開発機構), 酒井(電力中央研究所), 石丸(中国電力) (計18名)
  - 代理出席者: 谷口(日本原子力発電, 上屋委員代理), 今村(北海道電力, 河本), 呉(三菱重工業, 松岡委員代理), 小出(原子燃料工業, 小関委員代理), 清水(関西電力, 黒川委員代理) (計5名)
  - 常時参加者: なし (計0名)
  - オブザーバ: 田岡原子力規制庁 (計1名)
  - 説明者: 松岡(三菱重工業), 中野(日立 GE ニュークリア・エナジー) (計2名)
  - 欠席委員: 齋藤(電力中央研究所) (計1名)
  - 事務局: 美濃 (計1名)

### 4. 配付資料

資料 No.90-1	第 89 回 機器・配管系検討会 議事録 (案)
資料 No.90-2-1	2025 年度 各分野の規格策定活動 (案) 耐震設計分野
資料 No.90-2-2	2024 年度活動実績及び 2025 年度活動計画 (案) 耐震設計分野
資料 No.90-3-1	JEAG4601-2015[2016 年追補版] (SA-JEAG) 改定検討状況
資料 No.90-3-2	JEAG4601-2021[202x 年追補版] (SA-JEAG) 改定前後表
資料 No.90-参考	機器・配管系検討会委員名簿 (所属変更の反映)

### 5. 議事

事務局から, 本検討会にて私的独占の禁止並びに公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後議事が進められた。

#### (1) 資料の確認, 代理出席者・オブザーバの承認

事務局から配付資料の確認の後, 代理出席者 3 名の紹介があり, 分科会規約第 13 条 (検討会) 第 7 項に基づき主査の承認を得た。確認時点で出席者は代理出席者を含めて 21 名で, 検討会決議条件である分科会規約第 13 条 (検討会) 第 15 項に基づく, 委員総数 24 名に対し決議に必要な「委員総数の 3 分の 2 以上の出席(16 名以上)」を満たしていることを確認した。その後オブザーバ 1 名の紹介があり, 分科会規約第 13 条 (検討会) 第 11 項に基づき, 主査の承認を得た。

## (2) 前回議事録（案）の確認

事務局から資料 No.90-1 に基づき、前回議事録（案）の紹介があり、正式議事録にすることについて、分科会規約第 13 条（検討会）第 15 項に基づき、挙手及び Web の挙手機能にて決議の結果、出席委員の 5 分の 4 以上の賛成で承認された。

## (3) 委員変更の紹介

事務局より、今回委員の変更はないが、宮崎委員の所属変更があったことを資料 No.90-参考にて紹介した。

## (4) 2024 年度活動実績見込み及び 2025 年度活動計画（案）の中間報告について（審議）

野元幹事及び行徳副幹事から資料 No.90-2-1 及び資料 No.90-2-2 に基づき、各分野の規格策定活動（案）と 2024 年度活動実績（中間）及び 2025 年度活動計画（案）について説明があった。地震に遭遇した原子力発電所の損傷事例については修文したうえで、総括検討会に中間報告として上程することについて、分科会規約第 13 条（検討会）第 15 項に基づき、挙手及び Web の挙手機能にて決議の結果、出席委員の 5 分の 4 以上の賛成で承認された。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 資料 No.90-2-1 の P.8 「(b)地震に遭遇した原子力発電所の設備損傷事例の調査」の記載を修文するとのことだが、その内容は、総括委員会に上程する前に、機器・配管系検討会委員の皆様へ周知があるのか。
- 修文内容は WG の綿引幹事と調整し、中間報告として総括検討会で議論した内容にて、年明けの次回機器・配管系検討会にてみなさまにレビューいただく。
- ・ 中長期的に検討する項目のうち 3 次元免震については、免震 JEAG として独立した規格を作るのか、免震 JEAG の中の一項目として取り込むのかを念頭におきながら議論を進めてほしい。
- 3 次元免震ワーキングにて、規格としてどういう形にしていくのか、どういうスケジュールとするのかについて相談しながら進めていく。

## (5) SA-JEAG の改定状況について

行徳副幹事より、資料 No.90-3-1 及び資料 No. 90-3-2 に基づき、JEAG4601-2015[2016 追補版] (SA-JEAG) の改定状況について説明があった。また、次回検討会では、今回頂いたコメントを反映して改定前後表、改定の概要のパワーポイントにより審議いただき、分科会及び原子力規格委員会へ上程していく流れとし、次年度に改定案を上程していく計画であることの説明があった。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 可搬型重大事故対処設備の保管場所の記載のうち、「～と異なる保管場に保管する」とは、何を意図して、どのように異なれば「異なる保管場所」といえるのか、考え方と一緒に記載しておかないと、ユーザーの誤解を招く可能性があるため、解説を加えることも必要ではないか。

- 地震により同時に影響を受けない箇所という旨の記載ではあるが、いろいろな考え方はあることから、参考資料にする等により追記することを検討する。
- ・可搬型重大事故対処設備となる車両は、自衛隊で採用されるような過酷な環境で使用することを前提に設計されている車両や構成部品を用いることで、地震力に対する裕度がかかなり大きくなるのではないか。
- これまで車両の加振試験を多数実施した経験では構成部品等が壊れたことはなく、また悪路を走ることのできる車両でもあり、弱い部分を持っているものではない。
- しかし、もともとの耐性が非常に高い構成部品を選ぶという考え方は現状の記載には入っていないことから、そのような手段があるということを追記することは前向きなご意見であり、参考資料に入れる等の形で修文を検討する。
- ・資料 90-3-1 の 2 枚目「(1)関連文献の内容確認」のうち「要望・改善に向けた提案等」の項目の②の CC N-900 について「技術評価等はこれから」と記載があるが、RG1.84 REVISION40 でエンドースされている。また、同じ行の「機器・配管系検討会等での意見」の項目の最後の二行で「多様性について難がある」との記載があるが、何でも使えるものではないという趣旨であることから、多様性から汎用性へ見直した方がよいと考える。
- 資料に反映する。

#### (6) その他

次回の機器・配管系検討会開催は 1 月頃を想定しており、具体的な日時は別途調整のうえ事務局より連絡する。

以 上